

津波警報と津波フラッグ

今年は、海水浴場がオープンしたところも多いと思います。そこで津波警報や津波フラッグなどについて説明します。

1 津波警報（地震発生後3分を目途に発表）

気象庁は、地震が発生すると地震の規模や震源地を推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震発生から約3分を目途に、大津波警報・津波警報・津波注意報（以下、津波警報等）を津波予報区単位で発表します。大阪府の津波予報区は「大阪府」です。

この時、予想される津波の高さは、通常は5段階の数値で発表します。ただし、地震の規模（マグニチュード）が8を超えるような巨大地震に対しては、精度のよい地震の規模をすぐに求めることができないため、最初に発表する津波警報等では、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表して、非常事態であることを伝えます。その後、地震の規模が精度よく求められた時点で津波警報等を更新し、予想される津波の高さを数値で発表します。

<津波警報等の種類>

種類	発表基準 〔予想される津波の最大波の高さ〕	発表する津波の高さ		取るべき行動
		数値での発表	巨大地震の場合	
大津波警報	高いところで3 mを超える	10 m超 10 m 5 m	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波警報	高いところで1 mを超え3 m以下	3 m	高い	
津波注意報	高いところで0.2 m以上、1 m以下	1 m	表記しない	

津波警報等と避難のポイント

- ◆ 震源が陸地に近いと津波警報等が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても周期の長い揺れを感じたときは、**すぐに避難を開始**しましょう。
- ◆ 津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。**直ちにできる限りの避難**をしましょう。
- ◆ 津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、**より高い場所を目指して避難**しましょう。
- ◆ 津波は長い時間くり返し押しよせます。**津波警報等が解除されるまでは、避難を続け**ましょう。

2 津波フラッグについて

(1) 津波警報等の視覚的伝達手段

津波フラッグは、津波警報等が発表されたことをお知らせするための旗です。

津波警報等は、テレビやラジオ、スマートフォン、防災無線、サイレン、鐘など様々な手段で伝達されますが、令和2年（2020年）6月から海水浴場等で津波フラッグによる視覚的伝達が行われています。大阪府内の海水浴場でも今年度から導入を予定されているところがあります。

津波フラッグを用いることで、聴覚に障害をお持ちの方や、波の音や風で音声が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。



図の破線赤丸が津波フラッグです

(2) 津波フラッグの大きさやデザイン

津波フラッグは、長方形を四分割した赤と白の格子模様（左上が赤色）の旗です。縦横の長さや比率に決まりはありません。遠くからの視認性を考慮して短辺 100cm 以上が推奨されています。また津波フラッグの赤色の詳細な指定はなく格子模様は国際信号旗である「U旗^{※1}」と同様のものとなります。

※1 U旗は、「貴船の進路に危険あり」を意味する国際信号旗であり、海外では海からの緊急避難を知らせる旗として多く用いられている。一方でU旗は、他の国際信号旗と組み合わせることで別の意味になることがある（例：U旗とW旗（同じく国際信号旗）を組み合わせると「ご安航を祈る」の意味となる）。

リーフレット「津波フラッグ」



https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_flag_beach/index.html

「津波フラッグをおぼえよう」



https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_flag_manga/index.html

リーフレットは気象庁ホームページからダウンロードしてご利用ください。